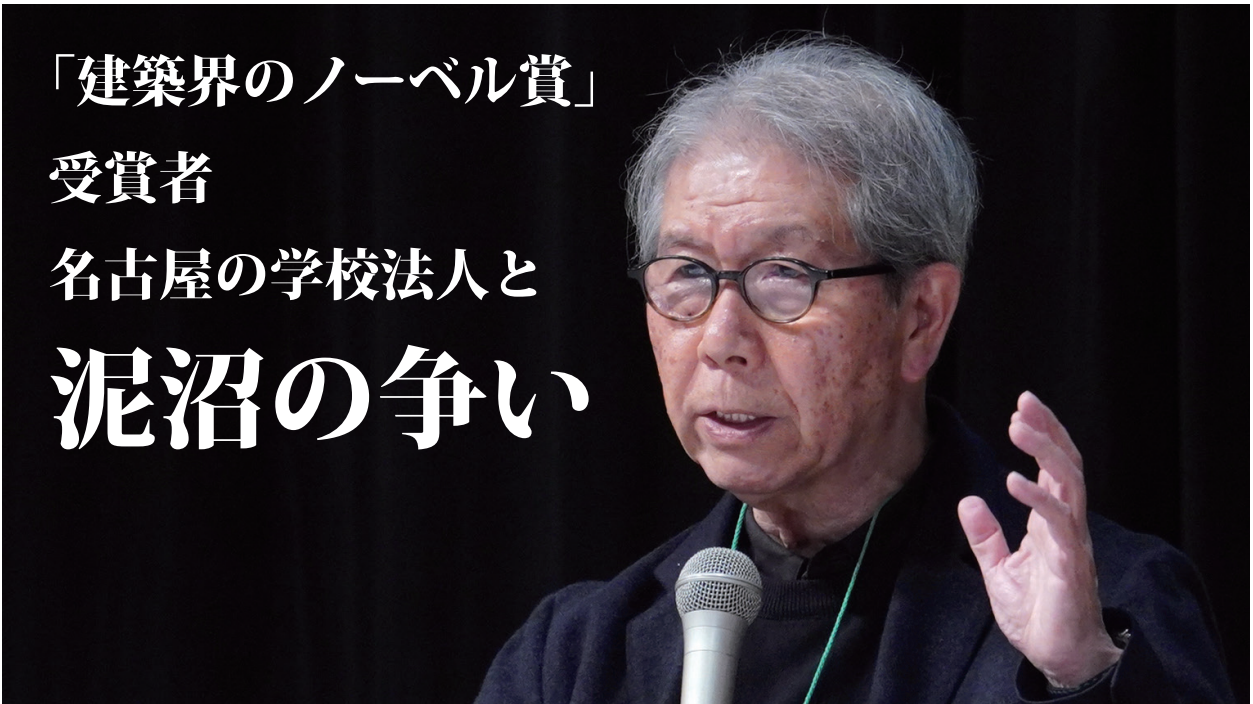


# 「建築界のノーベル賞」 受賞者 名古屋の学校法人と 泥沼の争い



愛知県での建築イベントに登壇した建築家の山本理顕＝2023年11月9日、筆者撮影

「建築界のノーベル賞」とされるプリツカー賞の今年の受賞者に日本の建築家・山本理顕（りけん）氏（78）が選ばれた。3月5日の受賞決定後の報道では、山本氏の代表的な建築作品として横須賀美術館（神奈川県横須賀市）や公立ほこだて未来大学（北海道函館市）などとともに名古屋造形大学（名古屋市北区）を挙げるメディアもあった。だが、山本氏が学長を務めていた同大学を巡っては、運営する学校法人・同朋学園（名古屋市中村区）と2年以上にわたる裁判を含めた泥沼の争いが続いている。両者の間に何があったのだろうか。

## ■「名古屋競馬場跡地」コンペ問題

山本氏は横浜市を拠点に国内外で建築設計を手掛けているが、2016年に愛知県小牧市にあった名古屋造形大で講演をしたのがきっかけで、学園側から名古屋市北区に移転する構想があった新キャンパス（名城公園キャンパス）の設計を依頼された。さらに当時の同朋学園の甲村和博理事長らが直々に山本氏に造形大の学長就任も要請し、18年4月から山本氏は造形大の学長と教授、そして学園の理事にも就任した。

ところが、コロナ禍が2年目に入った21年の年明け。学園の中核である同朋大の松田正久学長が山本氏に電話し、「学園が名古屋競馬場の跡地利用のコンペに参加するので、理事会で

反対しないでほしい」といった旨を伝えた。

名古屋市港区の名古屋競馬場は愛知県や名古屋市による愛知県競馬組合の運営だが、22年に弥富市に移転し、跡地を26年に地元開催するアジア競技大会の選手村に利用する前提で再開発することになっていた。その開発事業者の公募に同朋学園が中部電力グループの一員として参加し、公募型プロポーザル方式の審査（コンペ）で選定されれば同朋大のキャンパスを移転する計画だという。

山本氏は街づくりやコンペの制度づくりも専門だ。名古屋競馬場跡地についても自ら募集要項などを調べ、大学が場外馬券売り場の隣に移転することになる敷地条件、津波災害や土壌汚染のリスクが高いことなどを問題視。学園の理